

標準応答スペクトルに係る対応状況について (2023年3月2日)

原子力エネルギー協議会
日本原燃株式会社
リサイクル燃料貯蔵株式会社

- 令和4年12月5日「第3回震源を特定せず策定する地震動(スペクトル)の規制導入の経過措置に係る意見聴取会」において、標準応答スペクトルを用いた評価結果により既往の基準地震動Ssに新たな地震動を追加する施設について、**設置許可審査の進捗状況、新たな基準地震動を踏まえた詳細設計期間及び工事の発生有無等の見通し**をご説明した。
- 本日は、各施設のその後の**設置許可審査の進捗状況**および**現時点における今後の見通し**をご報告する。

2. 許可審査状況と後段規制への対応の見通し【伊方】

- 伊方発電所の対応見通しは、以下の通り。
 - ✓ 2022年4月15日に、伊方の特定せずSsが概ね了承されるとともに、同9月29日に施設の基本設計方針についても概ね了承され、耐震評価内容が確定したことから、**改正規則等への適合性を早期に示す重要性に鑑み、可能なものから詳細設計に着手している。**
 - ✓ **現時点において、工事の発生はないと判断しており、仮に、耐震補強が必要となったとしても、既許可・既認可の範囲内で支持構造物の追設等が可能であると考えている。**

- 2022年12月からの進捗および対応見通しの変更点
 - ✓ **2月20日に設置変更許可申請の補正を行った。**
 - ✓ **設工認申請に向けた詳細設計については、工程通り進めており対応見通しの変更なし。**

年度		R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)
伊方	特定せずBF (輻輳案件除く)	▼設置許可申請 (7/15) (設置許可審査)	▼地震動概ね了承 (4/15) ▼施設の基本設計方針 概ね了承 (9/29)	▼補正 (2/20) ▼許可	▼設置許可BF期限 (4/20)		
	設工認・ 使用前 確認			(詳細設計)		▼設工認申請 (設工認審査)	▼認可

2. 許可審査状況と後段規制への対応の見通し【川内・玄海】

- 川内及び玄海発電所の対応の見通しは、以下の通り。
 - ✓ 川内・玄海は、「特定せずSs」と「施設の基本設計」が概ね了承されて以降、設置変更許可処分を待たずに詳細設計に着手することで、許可後24カ月程度で詳細設計を完了させる計画である。
 - ✓ 設置許可審査の状況については、**地下構造モデルに対する前回審査会合（2023年2月10日）でのご指摘を踏まえ、現在、対応スケジュールを再検討しているところ**であるが、経過措置期限までに許可をいただけるよう、地盤安定解析における解析技術者の増員を図るなど、**必要な経営資源を最大限投入し、全社一丸となって対応していく**。
 - ✓ 現時点においては、特定せずSsが確定しておらず**工事発生の見通しが得られていない状況**であるが、**特定せずSsが概ね確定後に速やかに提示していく**。
 - ✓ なお、特定せずSsの大きさが、現申請と同等レベルであれば、許認可手続きを伴う工事は発生しない見込み。但し、この場合においても、技術基準への適合性を確保するための工事（許認可手続きを伴わない補強工事）が発生する可能性があり、認可後2定検程度を想定している。
- 2022年12月からの進捗および対応見通しの変更点
 - ✓ 設置許可審査について、**川内と玄海とで審査状況が異なることから、準備でき次第、発電所毎に速やかに説明していく**。（具体的な対応スケジュールについては、前回審査会合のご指摘等を踏まえ、現在、再検討中。）

年度		R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	~
玄海	特定せずBF	特定せずSs策定に係る 補正 審査会合(検討中) (検討中) (設置許可審査)	許可	(詳細設計)		設工認申請 (設工認審査) ※1	認可 (工事又は使用前確認) ※2
川内	特定せずBF	特定せずSs策定に係る 補正 審査会合(検討中) (検討中) (設置許可審査)	許可	(詳細設計)		設工認申請 (設工認審査) ※1	認可 (工事又は使用前確認) ※2

※1 川内・玄海について、それぞれ12カ月を想定しているが、説明の効率化により、審査工程の短縮に努める。

※2 特定せずSsが現申請と同等レベルであった場合でも、許認可手続きを伴わない補強工事が発生する可能性があり、認可後2定検程度を想定している。

2. 許可審査状況と後段規制への対応の見通し【日本原燃】

- 日本原燃（再処理施設、廃棄物管理施設、MOX燃料施設）の対応の見通しは、以下の通り。
 - ✓ 2022年4月に特定せずSsの概ね了承を得ている。
 - ✓ 2023年4月頃に特定せずSsの補正申請を行い、新規規制基準の設工認における地盤・地震の審査状況を踏まえ、2023年5月頃より詳細設計に着手することを想定している。
 - ✓ 震源特定せずの設工認審査期間としては、最大で約1年と設定。
 - ✓ なお、震源特定せずSsを考慮したとしても、**耐震補強工事等は発生しない見込み**である。

- 2022年12月からの進捗および対応見通しの変更点
 - ✓ 再処理施設のしゅん工時期の検討にあわせて新規規制基準の設工認審査期間も検討中であったことから、本件に係る設工認審査期間の見通しを示していなかったが、新規規制基準の設工認審査期間を約1年と見積もったことを踏まえ、震源特定せずの設工認審査期間はこれを上回ることはないとの考えから、**設工認審査に要する期間を最大で約1年と設定**した。

年度		R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8 (2026)
原燃 再処理施設 廃棄物管理施設 MOX燃料施設	特定せずBF	▼ Ss概ね了承 (事業許可審査)	▽ 補正 (2023年4月) 許可	申請準備(2年) (詳細設計期間)	▽ 設工認申請 (設工認審査)(約1年)	▽ 認可
			(建物・構築物) ↓ (機器・配管系)			

2. 許可審査状況と後段規制への対応の見通し【東海第二】

- 東海第二発電所の対応見通しは、以下の通り。
 - ✓ 2022年6月10日東海第二の**特定せずSsが審査会合にて概ね了承され、設工認申請のための詳細設計を行っている。**
 - ✓ なお、特定せずBFの設置変更許可申請の補正は、地震動審査の状況を踏まえて実施時期を調整する。
 - ✓ また、設工認申請手続きとしては、新規制BFの設工認の変更認可申請を行うことで考えている。
 - ✓ 新Ssは、許可済のSsに対して水平方向の長周期帯の一部で超える程度であり、許可済のSsでの評価結果に包絡されるか、または評価結果に包絡されなくても耐震裕度内に収まるものと考えており、**現時点では工事発生はないと想定している。**

- 2022年12月からの進捗および対応見通しの変更点
 - ✓ 地震動評価の審査が継続していることを踏まえて、**2月末に計画していた設置変更許可申請の補正については、地震動評価の審査の見通しが得られた段階で決定する。**
 - ✓ なお、当該補正は特定せず申請（2021年6月）以降に許可された特重施設設置（2021年12月許可）の取り入れ及び特定せずSsの審査実績の反映を計画している。

年度		R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
東海第二	特定せずBF	▼Ss概ね了承(6/10) (設置許可審査)	▼補正 (詳細設計)	▼許可	
	新規制BF		(工事、使用前確認)	▼設工認 変更申請 (設工認審査)	▼認可

2. 許可審査状況と後段規制への対応の見通し【RFS】

- RFSの対応の見通しは、以下の通り。
 - ✓ 2022年1月20日に事業許可を申請し、**2023年2月8日に許可を取得した。**
 - ✓ **特定せずBFに係る設工認の申請は2022年度内に予定**しており、審査期間は“新規制BF”の工事、使用前確認の実施期間中となる見込みであることから、“新規制BF”の設工認変更認可申請での対応とする予定。
 - ✓ 耐震評価結果によると、**工事は発生しない見込み。**
- 2022年12月からの進捗および対応見通しの変更点
 - ✓ 2023年2月8日に事業許可を取得し、2022年度内に設工認変更認可申請予定。（対応見通しの変更点なし）

年度		R4(2022)	R5(2023)
RFS	特定せずBF	▼Ss概ね了承 (4/25) (事業許可審査) ▼審議論点なし (7/22) ▼補正 (9/20) ▼補正 (10/28) ▼補正 (12/2) ▼許可 (2/8)	
	新規制BF	(工事、使用前確認)	▼設工認変更申請 (2022年度内) (設工認審査) ▼認可 使用前終了

— 以上 —